

# 松山南高本校 SSH× 砥部分校 七折梅の枝葉を使った豆皿



昨年度、松山南高本校 SSH(スーパーサイエンスハイスクール)と砥部分校は『オール松山南高』の取組として、高校生が考える「砥部焼の魅力再発見プロジェクト」を始めた。

今回は第2弾として、七折梅の枝葉を使った商品開発に取り組み、本校 SSH が赤色の釉薬の調合に成功した。その完成した釉薬を基に、砥部分校では梅型の豆皿の制作を行った。

**成形** 石こう型を作り、梅型豆皿を成形する。



**釉掛け** 素焼(900°焼成)した梅型豆皿に釉薬を施す。



**本焼き・完成** 本焼(1250°の還元焼成)をして、底磨きを終えて梅型豆皿の完成。



# 愛媛県立松山南高等学校

梅の灰を使った赤色の釉薬ができるまで



**1. 梅の葉や枝の採取**

ななおい梅組合の方々にご協力いただきました。



**2. 葉の乾燥**

よく燃えるように乾燥させます。



**3. 燃やして灰を作る**

できるだけススを残さないように燃やします。



**4. 水簸(すいひ)**

灰に含まれるアルカリ成分を除去するため、何日も水で洗います。



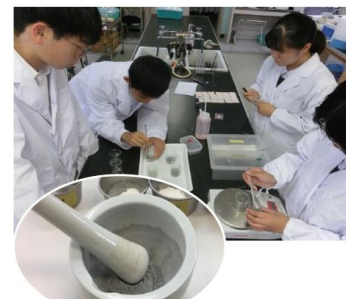
**5. 灰の乾燥**

乾燥機に灰を入れてしっかりと乾燥させます。



**6. 灰をふるいにかける**

ふるい(最小目75μm)にかけて粒子の大きさをそろえます。



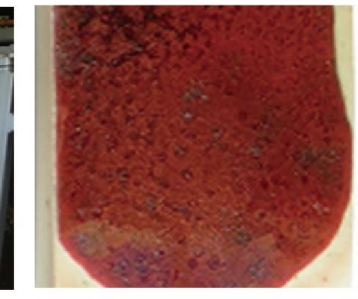
**7. 釉薬の調合**

福島長石や発色剤などを混ぜて目的の色に調整します。



**8. 焼成**

テストピースを作り1250°Cの還元焼成で本焼します。



赤色の釉薬  
完成!